

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）インフォデミック対策

ポリシーブリーフ

2022 年 9 月 14 日版

原文（英語）：

WHO policy brief: COVID-19 infodemic management

14 September 2022

https://www.who.int/publications/i/item/WHO-2019-nCoV-Policy_Brief-Infodemic-2022.1

キーポイント

- 健康情報に関して最も信頼できる情報源である場合が多い医療従事者に対し研修を行い、健康に関する誤った情報を特定、対処できるようにする。
- 健康や情報、デジタルリテラシー関連の取り組みを、対象とする集団に合わせて調整し、誤った情報がデジタルメディアやその他の媒体を通じて広く普及する前に対処する
- 高品質かつ入手しやすい健康情報をさまざまなフォーマットで制作し、再利用・編集・共有がなされ SNS を通じて迅速に拡散するようにする。
- インフォデミックに対処するタスクフォースを設け、インフォデミックへの理解と対応を迅速に進める。必要に応じて担当スタッフをトレーニングする。またこのタスクフォースが、リスクコミュニケーションやコミュニティエンゲージメントの取り組みと連携するよう働きかける。

イントロダクション

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の最初の症例が報告されてから 2 年半以上が経過するなか、パンデミックはいまだに世界的な緊急事態である。現在も何百万人の人が毎週新型コロナウイルスに感染し、2022 年の最初の 8 か月間で 100 万人以上が COVID-19 で死亡したと報告されている（参照：[WHO COVID-19 Dashboard](#)）。現在ある救命ツールが利用でき適切に利用されている場合、COVID-19 は管理可能な疾患となり、罹患率と死亡率を有意に減少させることができる。しかし命や暮らしは守られる一方で、残された課題もある。

WHO は各国が、競合する公衆衛生の課題や紛争、気候変動、経済危機に対応しながらも COVID-19 への対応も維持する上で直面する課題を認識している。WHO は各国がこれまでの成功例をもとに COVID-19 戦略を調整できるよう引き続きサポートし、国レベルでの対応を通して学んだことを生かす取り組みを続けている。

世界での COVID-19 の緊急事態を終わらせるための国レベル及び世界レベルの取り組みを支援するため、WHO は「COVID-19 準備・対応グローバル計画（[Global Preparedness, Readiness and Response plan](#)）」を 2022 年に更新し、2 つの戦略的な目的をまとめた。一つ目の戦略は、新型コロナウイルスの循環を減少させること。特に重症化する恐れがあったり職業的にウイルスに曝

露しやすかったりする人を含めた個々人を守ることでこれを達成する。それにより、ウイルスが進化して次の変異株が出現する可能性を低くし、保健制度への負荷も減らすことができる。次に死亡率と罹患率、長期の後遺症を減少させるために COVID-19 を予防・診断・治療すること。WHO の計画では、さらなる研究開発とともに、効果的な対策と必要物資が公平に入手できるよう見通しを立てている。

COVID-19 に関する各国の状況は、集団免疫のレベル、人々の信頼、COVID-19 の診断・治療法・ワクチン・個人用防護具の使用状況に加え、COVID-19 とは別の健康関連あるいはそれ以外の緊急事態から来る課題など、多くの要素によって異なってくる。そのことを鑑みて、WHO は [6 つの短いポリシーブリーフのセット](#) を作成した。このブリーフは、各国が緊急および長期的な COVID-19 の脅威に対応するための重要な側面に着目し政策を改定するとともに、公衆衛生のインフラをさらに強固にするための土台固めができるよう手助けすることを目的としている。(参照：[Strengthening the Global Architecture for Health Emergency Preparedness, Response and Resilience](#))

これらのポリシーブリーフは、国レベルあるいはそれに準じた政策立案者が実施できる重要なアクションをまとめている。具体的には、COVID-19 の検査、COVID-19 の臨床的マネジメント、COVID-19 ワクチン接種目標の達成、医療機関での COVID-19 の感染予防管理策の維持、リスクコミュニケーションやコミュニティエンゲージメントを通じた信頼構築、COVID-19 のインフォデミック対策が含まれる。本ポリシーブリーフは、COVID-19 の流行におけるインフォデミック対策に焦点を当てている。

このポリシーブリーフの目的

この文書（と残り 5 つの COVID-19 ポリシーブリーフ）では、WHO による COVID-19 のテクニカルガイダンスの推奨に基づいた、加盟各国のための重要なアクションを概説する。また、COVID-19 とは別の健康関連あるいはそれ以外の緊急事態においてもそうした命に関わるアクションを続けるために、持続的な資金を確保し、対応に関わる人々が研修を受け保護され尊重される必要がある点についても明らかにしている。文書はさらに、他の差し迫った公衆衛生上の課題との関連において、COVID-19 への短期的および長期的な対応を強化する必要性も評価している。

加盟国が COVID-19 政策を更新する上で検討すべき重要なアクション

インフォデミックへの対処には、健康に関する誤った情報をもたらす害を軽減し和らげるためのツールや技術が使用される。COVID-19 のインフォデミックは、不正確な情報や古い情報を含めた過剰な情報がデジタル上で、人から人へ、また他のメディアや媒体を通じて共有されてきた点が特徴である(1,2,3,4)。グローバルな相互のつながりとデジタル化により、こうした種類の情報がこれまで以上に迅速に広範に拡散し、多くの場合信頼性が低くタイムリーではない情報、または関連性の低い情報が人々に届く。このインフォデミックによって混乱や保健当局への不信任、健康への被害が起きる可能性がある(1,2,3,4)。

現在のデジタル情報環境では、健康に関する情報を放送し広めるだけでは、公衆衛生上の推奨事項を遵守するよう人々に情報を届け納得させるには不十分である。これは感染拡大を阻止したり、罹患率や死亡率の上昇を防止したりするために推奨事項の厳守が必要な場合などの緊急時であ

っても同じである(4)。より効果的な保健当局主導のインフォデミック対策の戦略がなければ、正確な情報と不正確な情報を区別したり、健康に関するガイダンスを適切に守ったりするのは大多数の人々にとって困難だと言える。インフォデミック対策の戦略がない場合、人々は政府と政府の緊急対応に不信感を抱き、エビデンスに基づかない診断や治療を求める可能性がある。また、医療ケアを求める人や医療従事者に対する偏見、または彼らへの暴力を助長する可能性もある。

1. 医療従事者に研修を実施し、健康に関する誤情報を特定・対処できるようにする

医療サービスの前や最中における研修、また継続的な教育研修を拡大して行い、患者の懸念を聞いて対応するためのエビデンスに基づいた技術や、誤った情報に対処するための技術を教える。最新の職業支援やその他のツールとリソースを提供して、誤情報にまつわる話に対処しよくある質問に答えられるようにすることが重要である(1,3,11,12,13,14,15)。

地域の医療従事者、健康づくりに従事する者、ソーシャルワーカーやその他の関連職種のスタッフは、既存の保健プログラムや既存の対応能力の範囲で地域の人々と（オンライン・オフラインに関わらず）交流する際に、人々の混乱や健康に関する誤情報を対処できるように研修を受ける必要がある(1,3,11,12,13,14,15)。またそうしたスタッフは、インフォデミック関連の指標をモニタリングするためのテクニックとアプローチについても研修を受ける必要がある。

2. 健康、情報、デジタルリテラシー関連の取り組みを対象集団に合わせて調整する

地域社会のさまざまな集団が健康に関する誤情報の影響を受ける。特に影響を受けやすい集団（移民、少数コミュニティ、支援が届きにくい集団など）は、信頼できる正確な情報源へのアクセスが限られているため危険にさらされている。これにより、既に制限を受けているかもしれない医療ケアへのアクセスと需要がさらに減る可能性がある。健康に関する誤情報により特に影響を受ける脆弱な集団を特定し、レジリエンスを支援するために適切な戦略を策定することが重要である。コミュニティを中心にした主要なインフォデミック対策としては、仲間同士の（ピアツーピア）アプローチを通じて健康に関する誤情報に対する地域のレジリエンスを構築したり、コミュニティの人々自身が誤情報を追跡し対処できるように地域の（オンライン及びオフラインの）ネットワークを活用したりする戦略が含まれる(1,5,6,8,9,10)。

誤情報は、人々が信頼できる情報源から健康に関する正確な情報を簡単に見つけられないところで広がる。このような情報のギャップは予防可能であり、早期に特定できれば各集団に合わせた信頼できる情報でそのギャップを迅速に埋めることができる。これは、緊急事態において健康に関する誤情報の影響を減らすための最も効果的な予防戦略である(1,5,6,8,9,10)。

語られ方（ナラティブ）や認識、動機は地域の中で急速に形成される。対応が遅れてしまうと、効果がなくなるどころか、政府および政府の緊急事態対応への信頼を損なうことで裏目に出る場合さえある。このような危険性を避けるためには、混乱の原因を迅速に特定し、人々がどのように健康に関する情報を検索しているか、また情報のニーズを効果的に満たしているかを明らかにする必要がある。地域における語られ方が変化するのに合わせ、エビデンスを用いて、コミュニケーションや緊急時の対応プログラムを軌道修正していくことができる(1,5,6,8,9,10)。

有用なアプローチの一つとして決定木（樹形図）の開発を行い、インフォデミックをモニタリングするとともに、いつ、どのように行動すべきか意思決定する際の指針とする。プリバンキング

(誤情報が浸透して人々が日常生活の中でそれに晒される前に、誤情報の手法を明らかにし、広がり得る誤情報を先んじて出すという方法で、人々がメディアによる操作を認識できるように教示すること)は重要な技術として認識されている(1,3,11,12,13,14,15)。

誤情報やメディア操作の手法を認識する方法を人々が学ぶことは可能である。例えば、テキストメッセージを使ったプリバンキングのコースや、人間の自然な会話を模倣する次世代チャットボット、アプリを使ったゲーム形式の学習など、デジタルを活用して行うことができる(1,3,11,12,13,14,15)。

ジャーナリストとファクトチェックの専門家は、健康に関する正確な情報が共有される上で主要な役割を果たす。彼らは健康に関する虚偽の主張に反論する能力を持っていると考えられる。

3. 高品質でアクセスが可能な健康情報をさまざまなデジタル形式で開発する

国や地方の公衆衛生当局のウェブサイトおよび SNS の見直しと強化を行い、検索エンジンを含めインターネット上で健康に関するコンテンツを見つけやすくする必要がある。ファクトチェック団体や SNS メディア、その他メディアが参照できるようなウェブページを設置する。そのページを通じて健康に関する誤情報を修正し、最新のコンテンツを載せて情報を定期的に更新する必要がある。混乱や誤情報のもととなりうる古いガイダンスや情報は削除しなくてはならない(1,3,11,12,13,14,15)。

さまざまなグループが利用しているインターネットアクセスの種類を考慮する必要がある。これには、低帯域幅の接続を利用している人や障害を持つ人などが含まれる。ウェブサイトは現地の文化に適応し、多言語のユーザーに届くように翻訳する必要がある。世界中の大多数の人々が健康に関する情報を検索するためにモバイルデバイスを使用しているため、コンテンツはそれに適応したものでなければならない(1,3,11,12,13,14,15)。

地域によっては保健当局への信頼が低いこともあり、そこからの情報発信を促進するよりも、人々が自ら健康に関する情報を適応し使用するかたちの方がより広く拡散される。これには、再利用・再編集・共有がしやすく、SNS を通じたデジタル上の拡散を目的としたフォーマットで健康に関する情報を発信することが役立つ。再利用できる正確で高品質なコンテンツが利用できない場合、正確性に欠け、偏ったあるいは潜在的に有害なコンテンツに取って代わることがある(1,3,11,12,13,14,15)。

新しいタイプのコミュニティとオンライン及びオフラインでのパートナーシップを拡大することでより健康的な情報環境を促進し、健康に関する正確な情報が豊富にあり、誤情報を見つけたり共有したりすることが難しいような環境をつくっていく。そうしたコミュニティの例として、キャリア関連のあるネットワーク、出会いを目的とした SNS、趣味に特化した SNS がある(1,3,11,12,13,14,15)。

教育、電気通信、食品・医薬品、消費者保護の部門はインフォデミック管理のパートナーになりうる。例えば教育においては、健康、デジタル、情報リテラシーをカリキュラムに組み込むことができる。食品・医薬品安全部門においては健康に関する信頼できる情報へのアクセスを提供するプログラムを強化することができる。民間部門を巻き込んで、政府の公衆衛生関連のウェブサイトやその他の信頼できるウェブサイト、緊急事態や健康トピックに関連する投稿やコンテンツを連携させることができる(1,7)。

4. インフォデミックのタスクフォースを設立し、インフォデミックへの理解と対応を迅速に行う

公衆衛生当局では多くの人が既に COVID-19 の誤情報に対応してはいるが、まだインフォデミック管理の専属チームをつくっていないところもある。出発点として、既存のスタッフのスキルや資源、キャパシティをマッピングし、COVID-19 への対応の一環で誤情報に対処した際に学んだ教訓をまとめることが有用である。

第2のステップとして、予算、人員配置、緊急対応のためのキャパシティ形成、日々の健康プログラムの活用といった、インフォデミック管理のニーズの定義が挙げられる。コンピテンシーフレームワークに基づいた人材管理のアクションプランを使用して、戦略を立てることができる。

第3のステップとして、緊急事態の際に柔軟に動員することができ、他の公衆衛生の文脈における誤情報に対処できるインフォデミック・インサイトチームの訓練・確立が挙げられる。緊急事態対応の座組みにおけるインフォデミック・インサイトチームの役割を定義し、迅速なインフォデミックの理解のための標準操作手順を開発する。インフォデミックの管理が、リスクコミュニケーションとコミュニティエンゲージメントの取り組みと連携しているようにする。

結論

インフォデミック管理の強化は、現在も続いている COVID-19 の流行に対処するための重要な戦略である。将来的には、インフォデミック管理の有効性や持続可能性を判断するために、その成果のモニタリングおよび評価が不可欠となるだろう。

更新予定

WHO は状況を注意深くモニタリングし、このポリシーブリーフに影響するあらゆる変化に対応する。新しいエビデンスが入手・確認され次第、必要なアップデートを発行する。

参考資料

1. WHO's Framework for Managing the COVID-19 Infodemic, <https://www.who.int/publications/i/item/9789240010314>
2. [Weekly epidemiological record, 8 July 2022, No 27, 2022, 97, 313–324](#). Delivering actionable infodemic insights and recommendations for the COVID-19 pandemic response. Weekly Epidemiological Record=Relevé épidémiologique hebdomadaire. 2022 Jul 8;97(27):313-24.
3. WHO competency framework: Building a response workforce to manage infodemics. <https://www.who.int/publications/i/item/9789240035287>
4. [WHO public health research agenda for managing infodemics](#)
5. [Finding the Signal through the Noise: A landscape and framework to enhance the effective use of digital social listening for immunization demand generation](#)
6. WHO Early AI-enabled response with social listening (EARS) on COVID-19 and COVID-19 vaccine narratives - <https://www.who-ears.com/#/>

7. [WHO third global infodemic management conference: Whole of Society challenges and solutions to respond to infodemics](#)
8. Update to 2022 WHO research and development agenda: [Chapter 7: Infodemiology: COVID-19 Research and Innovation. Powering the world's pandemic response – now and in the future](#)
9. [WHO's response to COVID-19 - 2021 Annual Report, April 2022](#)
10. 5th IM conference, Nov 2021: [WHO fifth infodemic management conference: steps toward measuring burden of infodemics](#)
11. Open WHO course "[Infodemic Management 101](#)"
12. 1st WHO infodemic manager training - <https://www.who.int/teams/epi-win/infodemic-management/1st-who-training-in-infodemic-management>
13. 2nd WHO infodemic manager training – <https://www.who.int/news-room/articles-detail/call-for-applicants-for-2nd-who-training-in-infodemic-management>
14. 3rd WHO infodemic manager training - <https://www.who.int/teams/epi-win/infodemic-management/3rd-who-training-on-infodemic-management>
15. GAVI/WHO/UNICEF/US CDC vaccine demand training - <https://www.who.int/news-room/articles-detail/call-for-applicants-for-comprehensive-training-for-promotion-of-vaccine-demand-to-maintain-and-restore-routine-immunization-and-promote-COVID-19-vaccination>; https://www.youtube.com/channel/UChNXDnWCc4bi9-bP6_LorHw

© World Health Organization 2022. Some rights reserved. This work is available under the [CC BY-NC-SA 3.0 IGO](#) license.

WHO reference number: WHO/2019-nCoV/Policy_Brief/Infodemic/2022.1